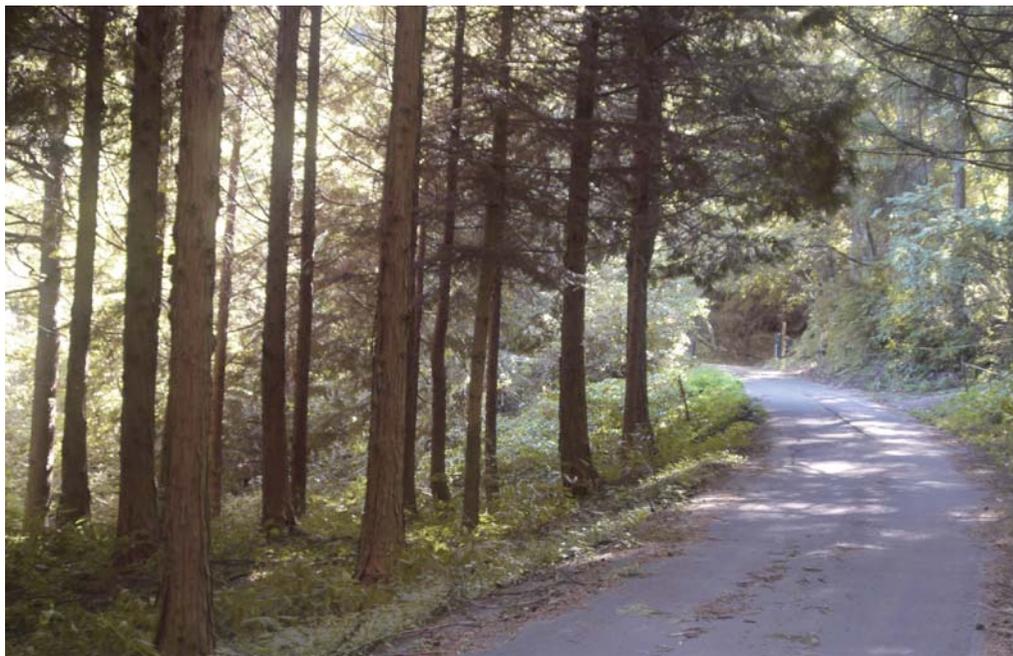


うしくびとうげ
牛首峠

街道沿いの古い街並や石仏が往事をしのばせる

霧訪山断層の断層鞍部に位置する峠。昔、長者ヶ平の屋敷に住む娘が若い僧と恋仲になり、底無し沼に身を投じて命を落として以来、お供していた牛が暴れるようになったため、その首を落とし峠の中腹に葬った、というのがこの峠の由来といわれている。古くは、大久保長安により1616(元和2)年に整備された初期中山道(小野街道)でもあった。峠近くの前山には、当時築かれた江戸より60里の一里塚が1基現存する。



峠下頂上付近より木曾側を望む



一里塚



「信州の峠」より(一部改編)



information

- アクセス
塩尻ICから20km
車→40分
- 所在地
辰野町小野

! ?
小野街道

五街道の制により整備された。下諏訪宿から塩尻峠・洗馬を通らずに、岡谷から小野峠を越えて小野を通り、牛首峠を経て木曾の桜沢・費川に至る街道。木曾谷の山林開発を促進する目的で、勘定奉行の大久保長安により開かれたといわれている。

大久保
長安
(ながやす/ちようあん)

徳川初期に幕府の勘定奉行として、軍政・財政・民政の各面で敏腕をふるった。佐渡金山開発などでその名を天下にとどろかせていたが、慶長18年(1613)に死去。その後、数々の不正があきらかとなり、大久保家は改易された。(※土分以上のもの籍を除いて、その家屋敷等を没収すること)



(国土地理院の数値地図200000(地図画像)を使用)